

登録コード	E0000907	開講年度	2026				
授業科目	コンピュータ利用教育 H					担当教員	大島 賢一
英文授業名	Educational Computing					副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	火曜・1時限	対象学生	2年生
講義室	教育学びセンター 201		授業形態	演習	遠隔授業科目	備考	
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	26Eカリ, 25Eカリ, 24Eカリ, 23Eカリ, 22Eカリ, 21Eカリ, 20Eカリ						
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観				学校教育におけるICT活用について、その意義や我が国の今日の課題を理解し、教育活動に応用する力をつける。		
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				GIGAスクール構想に関する基礎的な知識を踏まえて、クラウドを活用するための基礎的な知識・技能の習得する。		
(2)授業で学べる「テーマ」	その他						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	実際にコンピュータなどの情報機器を用いた演習を行い、その使用法などに習熟するとともに、教育活動における活用の方法について検討する。						
(5)授業計画	第 1 回：コンピュータ利用教育の概要（オンデマンド） 第 2 回：生成AIの基礎と対話型AIの活用（オンデマンド） 第 3 回：自分専用AIの作成と業務効率化（オンデマンド） 第 4 回：信頼できる情報の分析と論理構成（オンデマンド） 第 5 回：マルチモーダル生成と創造的アウトプット（オンデマンド） 第 6 回：コンピュータを活用した文書作成の方法について 第 7 回：コンピュータを利用したデータ分析 データの収集 第 8 回：コンピュータを利用したデータ分析 データの解析 第 9 回：コンピュータを利用したデータ分析 発表 第10回：小学校プログラミングの意義の理解と演習 制作実習 第11回：小学校プログラミングの意義の理解と演習 発表 第12回：美術科授業におけるICT活用事例の検討 情報収集 第13回：美術科授業におけるICT活用事例の検討 実践と体験 第14回：美術科授業におけるICT活用事例の検討 議論 及び授業アンケート						
(6)成績評価の方法	課題（60%）授業への参加（40%）によって評価する。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。						
(7)成績評価の基準	【卓越している】授業で扱った内容について、実際の教育活動への応用をする力を獲得している。 【かなり上にある】授業で扱った内容について、実際の教育活動との関わりから理解をしている。 【やや上にある】授業で扱った内容について、深い理解がなされている。 【その水準にある】授業で扱った内容について、一通りの理解がなされている。						
(8)事前事後学習の内容	授業に関わる項目について、ネット、書籍などによって事前に情報を収集する。授業で提示された課題について、課外において制作などし、定められた期限までに提出する。						
(9)履修上の注意	必修科目であるので、2年次に履修すること。 課題は課外の時間に及ぶことがある。 受講生の進捗状況によって内容及び課題を調整することがある。						
(10)質問、相談への対応及び連絡先	メール予約で随時。N213 oshima@shinshu-u.ac.jp 026-238-4141						
【教科書】	特に使用しない。						
【参考文献】	授業中に適宜紹介する。						